

ヨーロッパとハンガリーにおける夫婦別姓制度を考える

ヒダシ・ユディット

ハンガリーでは、15世紀に庶民が姓¹⁾と名の両方を使用できるようになった。その際、姓として個人の名あるいは職業名を用いることが最も一般的であった。姓の定着は17世紀末の国家機構の再編成と関連しており、第一に中央政府による人口調査に必要なものであった。20世紀半ばまでは、家族の構成員全員が家長の姓を名乗っていた。女性は、結婚すると行政上の自分の姓と名を喪失し、夫の姓名に「ネー (XY 夫人)」という接尾辞を付けた名前を持つことになった。これは、一般的に保守的な価値を尊重するハンガリー文化に特有なある種の封建的遺産とも言える。

姓の選択と使用に関する習慣は、ハンガリーの民主化以降も長い間変わらず、転機が待たれていたが、現在の状況に変化したのはここ10年ほどのことである(2004年度法律)。一方、西ヨーロッパ諸国では、姓の選択の自由化は民主化の早い段階ですでに完了したものであった。

現行の制度では、結婚式は、婚約者の二人が共に直接役所に出頭し、結婚の意思を申し出た日から数えて30日経過した後の日取りを役所の戸籍登記官が決定する。その際、二人が結婚後どのような姓と名を名乗るのかを役所に申し出る義務がある。夫婦の姓と名の選択の幅が広いと、以下に選択可能な姓と名を記す。

妻が婚姻後に使える姓と名：

1. 出生時の姓と名をそのまま使用：キシュ (姓)・エンマ (名)
2. 出生時の自分の姓と名を捨て、夫の姓と名に婚姻関係を示す伝統的な後置詞(「ネー」=「～夫人」)を付ける：サポー (姓)・ヤーノシュ夫

人 (名)

3. 夫の姓と名に婚姻関係を示す伝統的な後置詞を付け、さらに出生時の自分の姓と名を加える：サボー (姓)・ヤーノシュ夫人 (名) = キシュ (姓)・エンマ (名)
4. 夫の姓に婚姻関係を示す伝統的な後置詞を付け、さらに出生時の自分の姓と名を加える：サボー夫人 (姓) = キシュ (姓)・エンマ (名)
5. 夫の姓に出生時の自分の名を加える：サボー (姓)・エンマ (名)
6. 夫の姓に婚姻関係を示す伝統的な後置詞を付け、さらに出生時の自分の姓のイニシャルと名を加える：サボー夫人 (姓) = K (姓)・エンマ (名)

夫が婚姻後に使える姓と名：

1. 出生時の姓と名をそのまま使用：サボー (姓)・ヤーノシュ (名)
2. 出生時の自分の姓の代わりに妻の姓を使用：キシュ (姓)・ヤーノシュ (名)

夫婦ともに婚姻後の姓のダブル使用：妻と夫の出生時の姓をいっしょに使用する。この場合、二つ以上の姓は使用できない。

1. 妻：サボー = キシュ (姓)・エンマ (名) あるいは キシュ = サボー (姓)・エンマ (名)
2. 夫：サボー = キシュ (姓)・ヤーノシュ (名) あるいは キシュ = サボー (姓)・ヤーノシュ (名)

姓の使用傾向は、一般的に婚姻制度の意味の変化と切り離すことができない。皆が皆共同生活を営むパートナーと結婚しなくなった現在、結婚は共同生活の前提条件ではなくなった (Gregor 2017)。しかし新婚夫婦の92%が、結婚後少なくとも一方の姓名を変えている (KSH 2016) ことは、選択肢の幅の広がりを楽しむ夫婦が増えていることを示している。しかし、選択肢の幅が広がった結果、今日では姓を通して女性が既婚か否かはわからなくなった。女性にとって既婚という身分は、すでに特別な価値、社会的地位を示さ

なくなったのである。すなわち、姓の使用においても自立したアイデンティティを示す自立した女性が社会的にも完全に認められていることを示している。

ハンガリーではきわめてリベラルな姓の選択とは反対に、命名に関しては厳しい規則があり、ある意味で制限されたものである。子の命名は、出生前に『ハンガリー人名録』という命名リストの中から子供の性に基づいて選ばなければならない。ここに記載されていない名前を子供に付けたい場合は、ハンガリー科学アカデミー言語学研究所人名委員会に親の居住地の戸籍役所を通じて命名の許可を受ける必要がある。

姓の選択と命名における最近の変化と傾向は、社会における家族や結婚に関する価値観の変化を明確に反映している。今や、個々人がより自由に姓名を選択する権利、すなわち、姓名に基づいて何らかの共同体の成員であることを表現したいのか否か、個人が自分自身のアイデンティティを決定する権利を求める傾向が強まっている。

[注]

- 1) 本稿では日本の民法で使用されている「氏」ではなく、一般的に使われている「姓」を使用する。

[参考文献]

- Gregor A.- Kovács M.- Szabó M.- Ghizi J. (2017) *Attitudes and Experiences Regarding Various Forms of Gender Inequality*. ELTE Research, Budapest.
- KSH (Central Statistics Office of Hungary) (2016) <https://www.ksh.hu/docs/hun/xftp/ido-szaki/pdf/hazassagkotes.pdf>

(ヒダシ ユディット・ブダペスト商科大学名誉教授)